



《会計・税務の知識》

ベンチャー企業経営の基本 ～決算書の感じ方・損益計算書編～

ベンチャー企業経営の基本として、決算書への理解を深めることは非常に重要なのは言うまでもありません。とはいえ、初めはいささかとつきにくいものであるのも事実かと思えます。そこで今回は、決算書の1つである貸借対照表について、初めの一歩として読み方、というよりも感じ方について説明させて頂きました。

さて、今回は決算書のもう一方の相方である、損益計算書を感じてみたいと思います。

1. 損益計算書とは

損益計算書 (Profit and Loss Statement、略してP/L) とは、会社のある期間での経営成績を表すものです。会社の本業である売上から始まり、売上原価、販売費及び一般管理費、営業外損益、特別損益をそれぞれ差し引きして、最終的に当期利益を計算する表となっています。

では、損益計算書を図にしてみます。

売上高	
売上総利益	売上原価
営業利益	販売費及び一般管理費
経常利益	営業外損益
当期利益	特別損益

※説明の簡略化のため法人税等は考慮していません。

売上を出発点として、売上原価を控除したところで売上総利益 (いわゆる粗利)。そこから、販売費及び一般管理費を控除したところで営業利益 (営業活動から生じた利益)。営業利益から営業外損益を加減算して経常利益 (営業活動にその他の営業外の経常的な収支を加味した利益) を計算し、最後に特別損益を加減算して当期利益 (その会計期間の最終利益) となります。

企業の1会計期間の損益がどのように生み出されているのかを、この損益計算書により表現しているのです。

2. 実際に感じてみよう

では今回も、損益計算書を感じて頂きましょう。前回同様に、実際の企業の比較で感じてみたいと思います。

今回登場頂きますのは、今をときめくネット系の元気な企業で、グリーン、DeNA、ミクシィです。①の損益計算書の売上の金額を基準にそれぞれの比で、先ほどのグラフを作成してみました。

①

売上高	
売上総利益	売上原価
営業利益	販売費及び一般管理費
経常利益	
当期利益	

②

売上高	
売上総利益	売上原価
営業利益	販売費及び一般管理費
経常利益	
当期利益	特別損益

③

売上高	
売上総利益	売上原価
営業利益	販売費
経常利益	
当期利益	

さて、どの損益計算書がどの会社のものか、お分かりになりますでしょうか。

それぞれ特徴が見えてきますね。

正解は①グリーン、②DeNA、③ミクシィです。3社とも黒字のようです。①と②の利益は同水準ですが、売上高は②の方が高いようですので、①はより収益性の高い会社ということがわかります。③も黒字ではありますが、①・②と比較して小規模の会社のように、利益率も他の2社と比較するとやや分が悪いようです。

前回ご説明した貸借対照表と併せて比較すると、企業の分析をより深めることができます。

感じて頂きましたでしょうか。次回もベンチャー企業経営に欠かせない、会計・税務に関するトピックをわかりやすくご説明したいと思いますので、よろしくお祈りします。

(担当: 豊山 忠明)